



日本を護る会 レポート

平成30年3月

第30号

理事長挨拶：

平成30年最初のレポートをお届けします。

① 1月8日には新年の初詣として東京大神宮に参拝し、豊栄舞の祝福を受けて新年の国家安泰の祈願をしました。東京大神宮を初めて参拝した会員等の方々も多かったようですが、当日は「成人の日」でもあり、神社は多数の参拝者で賑わっていました。参拝後は近くのレストランで参加者30人による楽しい昼食会も行いました。

②また、2月8日には第73回定例会として近現代史研究家の林千勝氏から「日本の勝算と敗北 一日米開戦の真相—なぜわが国は開戦を決意せざるをえなかったのか？その勝算と敗因の真相」と題した、我が国の近現代史における極めて重要な問題である大東亜戦争について改めて考える機会を得る事ができました。

③さらに、3月8日には第74回定例会として山下英次大阪市立大学名誉教授による「ヨーロッパ人の見た戦国時代の日に—ヨーロッパ人と日本人、どちらが先に文明人となったのか」と題した講演会を行い、16世紀にヨーロッパから来日した宣教師の目に日本人はどのように映ったのか？という観点から我々日本人の特質を考える有意義な機会となりました。

当会は設立満10周年を迎えています。会員の皆様の御支援と御協力を得つつ活動内容も少しずつ充実して来ているように思いますので、今後はさらに本来の設立趣旨である次代の我が国を背負う若い世代の皆様を対象として各種活動を企画して行きたく考えます。会員の皆様方のお一層の御支援と御協力をお願い致します。

第27回研修会

平成30年新年の昇殿参拝と豊栄舞参観

平成30年1月8日(月) 11:00～ 東京大神宮

明けましておめでとうございます。本年初研修会のレポートです。

「日本を護る会」は昨新年には明治神宮に昇殿参拝をいたしました。今年も新年1月8日(月)更に格上の東京大神宮に昇殿参拝し、「神願成就」祈願の後豊栄舞という舞の祝福を受けました。当日は余り天気は良くなく雨が何時降り出すかといささか気になるような日でした。朝10時40分飯田橋東口に恙なく集合・・・と言いたい所ですが単に遅れた方、当日忘れていてドタキャンした方、何故か西口に行った方、現地集合と思っていた方など様々な変化球(?)の内に30人を超える

我がグループは無事東京大神宮の社務所前に集合致しました。どうも最終案内の前に未定稿の案内文が何故か発信されてしまい混乱を来たしたようです。真に申し訳ありませんでした。

東京大神宮は明治神宮より創建は古く格式もあるのですが比較すると外観もそして内部施設もかなりこじんまりとした印象です。境内の大きさはとても比較になりません。

しかし「大神宮」とは天照皇大神と豊受大神を祀った日本最高位の神社で（他に数社あり）

これに次ぐのが一般神社より格の高い神宮です。

明確な定義はありませんが天皇とその祖先神を祀った神社です。東京大神宮は明治 13 年伊勢神



宮の東京遥拝殿として建てられ（当時は日比谷大神宮）天照大神を始め伊勢神宮と共通のご祭神を祀っております。伊勢神宮に詣でたいと思ってもそれがかなわぬ時はこの東京大神宮にお参りすればよかったです。

さて現地到着後は全て順調・・・といったわけではなく集合時のごたごたでご祈祷開始定刻に全員そろいませんでした。11時に数分遅れたことで巫女さんから「次の11時30分にずらす」と無情の宣告を受けガックリ。しかし待合所に全員が着席してゆっくり待ち時間を持てたことはかえって良かったと思います。定刻になって後は順調にご祈祷を受け雅楽「越天楽」の下豊栄舞を拝観して昇殿参拝は20分ほどで無事終了いたしました。退出時は参拝者は当神宮のご神曆を頂き社務所前でご神酒も頂いて満足して帰路につきました。でもお酒に気付かず素通りしたり売店での神社グッズを買う時間が無かったりで折角来たのに、と残念がる声がありました。今回は全体に余裕がなく集合時間・場所、行程などでもう少しゆったりと時間配分を考えるべきだったと反省致しました。そんなわけで恒例の集合写真も撮りませんでした。尤も当日は予想していたとはいえ大変な人数の参拝客があり正殿前での集合写真は無理だったでしょう。当大神宮は縁結びの神様でもありこの日は祝日、成人の日でしたからこのような大ラッシュとなったと思います。実際境内を出て次の食事会場に向かう時には周辺の道路には参拝の老若男女が長蛇の列をなしてびっくり致しました。

ゆっくり歩いて飯田橋駅ビルに移動、6階の昼食会場へ。参拝者の殆どが参加いたしました。見晴らしの良い部屋（大型飲み屋さんですが）を予約してありましたので眺望を楽しみ和気あいあいと食事をしながら懇談、午後2時ころに散会いたしました。外に出ると心配した雨がポチポチと、丁度よいタイミングでした。

参拝者には幸運が、婚活中の方には良縁が・・・来ると思います。

第73回定例会

演題 「日本の勝算と敗北 — 日米開戦の真実」

講師 近代史研究家 林 千勝

平成30年2月8日(木) 18:30～ 銀座カフェ・ジュリエ



講師略歴

1961 年生まれ。東京大学経済学部卒。

富士銀行(現・みずほ銀行)を経て、現在、不動産投資開発会社役員。

長年、わが国の近現代史、特に先の大戦などの研究に取り組む。

著書:『日米開戦 陸軍の勝算 — 秋丸機関の最終報告書』(祥伝社)

『近衛文麿 野望と挫折』(ワック)

はじめに：

日本人は現在の良好な日米関係には何の疑いも持っていませんが80年前には日支事変をきっかけに両国関係が極めて悪化し、日本は対米開戦に追い込まれ、我が国にはどのような勝算、計画があったのか、間違いがあったとすればどこだったのか、これからの日本の為に我々は如何なる教訓を汲むべきか

1 「陸軍省戦争経済研究班」(秋丸機関)が勝てる大東亜戦争を創った

- ・太平洋戦争と大東亜戦争、大東亜戦争開戦の位置付け
- ・数次に亘る国力判断 ⇒ 攻防の策を講ぜよ、秋丸機関の設立
- ・総力戦としての戦争戦略を明示・・・「ドイツ経済抗戦力調査」・日米戦争経済抗戦力推移イメージ
- ・英米経済抗戦力シミュレーションの実施・・・「英米合作経済抗戦力調査(其一)」
- ・英米合作の弱点を掴む
- ・対米英戦争戦略の最終結論 ⇒ インド洋を中心とする西進戦略

2 帝国陸軍の科学性と合理性が、大東亜戦争の開戦を決めた

- ・帝国陸軍の科学性と合理性が、大東亜戦争の開戦を決めた
- ・ドイツの対ソ戦を冷静に判断
- ・「対米英蘭戦争指導要綱」⇒「対米英蘭蔣戦争終末促進に関する腹案」の決定(陸海軍共同策定)
- ・第一段作戦の成功
- ・大東亜戦争遂行を支えた「陸軍省戦争経済研究班」(秋丸機関)
- ・戦略性欠如の「総力戦研究所演習」

3 海軍軍令部総長と連合艦隊司令長官が、大東亜戦争を変えた

- ・ グランド・デザインを否定した山本五十六連合艦隊司令長官、決裁者は永野修身軍令部総長
- ・ 「今後採るべき戦争指導の大綱」と第二段作戦への危惧
- ・ インド洋作戦、絶好のチャンス
- ・ 乾坤一擲ドーリトル空襲とミッドウェー海戦の大敗北
- ・ 再びのインド洋作戦、ガダルカナル攻防そして「腹案」の破綻

まとめ：

多大の犠牲を払った大東亜戦争から何を学び、今後の我が国の発展のために何をすべきか？

- ・ 総合的な国家戦略の不足 陸海軍の戦争計画の不一致
- ・ 国際共産主義運動(コミンテルン)に策略の影響
- ・ ヨーロッパ戦線にアジアの裏口から入るルーズベルトの策略に引きずり込まれた。

歴史の真実を取り戻せ、支那事変も日米総力戦も必要なかった！



第74回定例会

演題 「ヨーロッパ人の見た戦国時代の日本」

講師 大阪市立大学名誉教授 山下 英次 経済博士

平成30年3月8日(木) 18:30～ 銀座カフェ・ジュリエ



講師略歴

1947年東京生まれ、1970年慶應義塾大学経済学部卒業。旧東京銀行に入行し調査部、国際投資部、海外部などに勤務後、1988年 大阪市立大学に移籍。同大学大学院経済学研究科教授を経て、現在、国際通貨研究所(IIMA)客員研究員。アパ日本再興財団の懸賞論文「真の 近現代史観」で3年連続入賞(2016年)。著書：『国際通貨システムの体制転換』(東洋経済新報社、2010年)、『ヨーロッパ通貨 統合—その成り立ちとアジアへのレッスン』(勁草書房、2002年)など

はじめに

16世紀中頃に宣教師というヨーロッパの知識人達が渡来し、長期間日本に滞在し、日本と日本人がある程度体系だって観察され、西洋に紹介されましたが、皆、日本が高度の文明社会であると認めています。実は、その頃、ヨーロッパは、漸く世界の後進地域から先進地域になり始めたばかりでした。「ヨーロッパ人と日本人、どちらが先に文明人になったのか？」興味深い疑問が湧いてきます。宣教師達の残したものや、当時の世界全体の中でのヨーロッパや日本の位置づけを検討すると、その疑問の答えは、日本人の方が先だという事が分かります。我々日本人は、少なくとも、450年前から、文明人であるとの国際的な評価を得ているのです。

1. 日本の戦国時代である16世紀の世界はどういう時代だったのか？

宣教師たちが日本にやってきた16世紀後半は、(F. ザビエルの来日=1549年)日本では、戦国時代(15世紀末～16世紀末)の後半、ヨーロッパでは、ルネッサンス(1300年頃～1600年頃)の末期であり、また、ヨーロッパは、宗教改革(16世紀)の時代でもあった。さらに、ヨーロッパでは、大航海時代(15世紀半ば～17世紀半ば)の前半でもある。別の言い方をすれば、ヨーロッパ人が文明人になり始めた頃でもあり、世界の中でヨーロッパが先進地域になり始めた時代であった。一方、日本人は、既にこの頃から、礼儀をわきまえた人々として、ヨーロッパ人の宣教師達から見られていた。

日本人は、少なくとも、450年以上前から、礼儀を心得た人(=文明人)としての国際的評価を確立していた、と言えるのではないか。すなわち、当時は、世界史の大転換期、大混乱期であり、大きな基調としては、世界の中心は、「東から西へ」移動。そして、21世紀前半の今もまた、世界史の大転換期？

大混乱期(何が起こるか分からない不安定期)、大きな基調としては、世界の中心は、「西から東へ」へ移動している。

2. ヨーロッパの宣教師たちが見た戦国時代の日本

【ヴィットーリオ・ヴォルピ(著)『巡察師ヴァリニャーノと日本』にみる日本人観】

- ・「中国人や日本人は、モラルの厳格さにおいて、地中海の住人に劣ることは何一つない。」「宣教師は、中国人や日本人に、〈バルバリ(野蛮人)〉という言葉を使うことはとてもできない。」 by ヴァリニャーノ
- ・「ザビエルは、今でも日本人を特徴づけている多くの美質、人間の尊厳、礼儀と形式、ホスピタリティ、清潔感。異なった階級における互いに対する尊重心等を、鋭く嗅ぎ取っている。また、多く(の人々)が読み書きができ、新しい文物を学ぼうという意欲に溢れている。」(V. ヴォルピ)
- ・「日本人は世界で一番利口な国民である。理性が教えることに従うことを愛し、したがって、我々より優れている。主が人に何を与え給うかを見たいと思うものは日本に来て、見るがよい。彼等の中に入り、彼らと関係を作る者は、彼等をよく導くことができる。彼らを理解できず、話し会えない者は、窮地に陥るしかない。」
by ガスパール
- ・例えば、ポルトガルの識字率は、19世紀に入ってからでも、10%以下に過ぎない。「我々は、(日本人から)、野蛮人で躰の悪い人間とみられていたのである。」by ヴァリニャーノ(ヴォルピ) → 宣教師は、この国の礼儀作法(とりわけ仏僧の作法)に学び、それに従うべきとの意識がますます強くなっていった。
- ・キリシタン大名の大友宗麟は、宣教師達の行動に大いに批判的であった(ヴォルピ)
- ・仏僧に対する賞賛の気持ち: 落ち着いた態度、抑制のきいた動作、激しい感情を抑える自制心、檀家を指揮する時の威厳、親切な振る舞い等(ヴォルピ)
- ・「・・・日本は大きかった。長さが3,000kmもあり、約2,000万人もの人口があり、当時のヨーロッパの大国と比べても、遥かに人口が多かった」(ヴォルピ) → そもそも、にほんは、いかなる観点から見ても小国ではない。 = 「日本は極東の小さな島国」と言う表現は誤り。

(日本の鎖国の背景)

- ・西国大名を含むかなり多数のキリシタンの誕生
最盛期の江戸初期には、30万人の信徒＝当時の人口の1.67% → それに対する危機感
- ・日本人奴隷の防止のため?
鉄砲伝来(1543年 or 1542年) → 日本国内でも、鉄砲が戦争における重要な要素に → 火薬の原料(硝石、硫黄、木炭)の一つであるが、戦国大名は、日本にはない硝石を輸入する必要性 ↑ → そのための対外決済代金を得る方法の模索 → 外国へ日本人奴隷の提供 → それをポルトガル商人などが仲介して世界中に売り捌く
- ・ヨーロッパの植民地的野心に対する警戒心

おわりに

- ・スペインとポルトガルは、「トルデシーヤス条約」(1494年)と「サラゴージャ条約」(1529年)によって、世界を2分割するほどの勢力を誇ったが、いずれも当時の新興国が非常に急速に力を付けた結果であった。
レコンキスタ(失地回復)が、1492年1月にあったばかりのこと。
- ・日本人とヨーロッパ人、どちらが先に文明人になったのか? → 答えは、日本人
日本人の礼儀正しさは、戦国時代の450年以上前から、いわば、国際的な評価を確立していた。来日した宣教師達の数多くの文献が、それを証明している。

- それでは、日本人は、いつ頃から文明人になったのか？ → 平安時代？
 - 今の世界の中で、礼儀作法の一番の先生は、誰か？ ➡ 明らかに日本
- 日本の礼儀作法を、世界に広めるべき - そうすれば、世界は、もっと平和に、そして、もっとましなものになるであろう。



事務局からのお知らせ

ロゴマーク改定に伴うデザインの募集に関するお願い

「日本を護る会」は過去の組織を継承し新体制にてスタートをしてから今年で10周年を迎えます。これを機に正式名称を現在の「日本を護る会・日本ネイビークラブ」から「日本を護る会」に改定をすることを検討中です。これに伴い、ロゴマークも新しくすることになり、そのアイデアを広く皆様から提供をして頂いてはどうかということになりました。要件として、**1) 会の趣旨を反映した象徴的なもので著作権は当会に帰属出来るもの、2) パッチなどにも使用できるよう‘シンプル’なもの**とします。皆様から具体的なデザイン、アイデア等を5月末までに下記の事務局へお寄せ頂ければ幸いです。

FAX : [03 3985 1008](tel:0339851008)

E-mail : awake-japan@googlegroups.com

今後の予定

4月8日(日) 第28回研修会 記念艦「三笠」見学 於:横須賀

5月10日(木) 第75回定例会 “演題未定” - 外交評論家 加瀬英明氏 -

新会員のお誘い

当会では、お友達など会の趣旨に賛同していただける会員を広く募集致しております。

事務局サポートのお願い

また当会の事務局は受付業務、会計サポートなどのお手伝いを頂ける方を求めています。今後とも皆様の一層のご支援をお願いいたします。

日本を護る会・レポート 第30号 平成30年3月発行

編集発行: 特定非営利活動法人 日本を護る会

HP : <http://awake-japan.sakura.ne.jp/>

E-mail : awake-japan@googlegroups.com